

## 2024年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年5月13日

上場会社名 株式会社かんな丸 上場取引所 東  
コード番号 7585 URL http://www.kannanmaru.co.jp  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野々村 孝志  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 宮永 一彦 TEL 048-815-6699  
四半期報告書提出予定日 2024年5月13日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年6月期第3四半期の業績 (2023年7月1日～2024年3月31日)

## (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第3四半期	1,231	31.1	△142	-	△141	-	△152	-
2023年6月期第3四半期	939	-	△281	-	△273	-	△288	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第3四半期	△39.97	-
2023年6月期第3四半期	△75.72	-

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第3四半期	1,600	703	44.0
2023年6月期	1,681	854	50.8

(参考) 自己資本 2024年6月期第3四半期 703百万円 2023年6月期 854百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年6月期	-	0.00	-	-	-
2024年6月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2024年6月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

## 3. 2024年6月期の業績予想 (2023年7月1日～2024年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,650	23.5	△130	-	△135	-	△140	-	△36.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期3Q	4,351,308株	2023年6月期	4,351,308株
② 期末自己株式数	2024年6月期3Q	539,812株	2023年6月期	539,761株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期3Q	3,811,509株	2023年6月期3Q	3,811,547株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因等により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P2「1.当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(重要な後発事象) .....	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における外食業界は、コロナ禍により落ち込んでいた飲食需要は、徐々にコロナ前の水準へ回復の兆しが見えてきました。一方で、依然として続いている不安定な国際情勢を背景とした物価上昇による原材料費の高騰、アフターコロナによる世界的なインフレ基調による物価上昇と人手不足に起因する人件費の上昇のみならず、それらにともなう様々な経費の上昇傾向が顕著であり、経営環境は依然として厳しい状況となっております。

こうした状況の下、当社は、事業ポートフォリオの組み替えを進めるとともに、運営店舗のコスト構造の見直しを進め、アフターコロナの環境下においてもお客様にお選びいただける店舗体制づくりを進めております。

当社が主力として運営しております居酒屋業態においては、飲食店でご飲食する素晴らしさを感じていただけるように、企業理念を具現化するための20項目を定めてスタッフ全員が一丸となって取り組み、お客様に笑顔でお帰りいただけるように注力しております。またチームワーク向上の取り組みによって、一人でも多くのお客様にご来店、そして再来店いただけるお店づくりに取り組んでおります。採用においても、様々な媒体やリファラル採用、SNSの活用や飲食のみならず、新たな事業に適した人材の採用にも取り組んでおります。

店舗戦略においては前期末に業態転換のために閉店していた「日本海庄や武蔵浦和店」が、「じんべえ太郎」、「VANSAN」、女性専用AIパーソナルジム「FURDI（ファディー）」の3店舗として昨年10月開店いたしました。そして、当第3四半期会計期間には、庄や北上尾駅店の内外装の部分改装を実施し、ファサードの視認性と店内カウンター席の強化を進め、お客様が気軽に入店しやすいお店、良い店舗体験ができるお店へと組み替えを進めております。

当第3四半期会計期間末の店舗数は、大衆割烹「庄や」15店舗、「日本海庄や」3店舗、カラオケルーム「うたうんだ村」1店舗、大衆すし酒場「じんべえ太郎」8店舗、Italian Kitchen「VANSAN」3店舗、女性専用AIパーソナルジム「FURDI」1店舗の合計31店舗となっております。

上記の結果、当第3四半期累計期間の業績は売上高1,231,149千円、売上総利益は850,329千円、販売費及び一般管理費については992,481千円となり、営業損失は142,151千円となりました。

経常損失につきましては141,778千円、税引前四半期純損失147,043千円となり、四半期純損失152,363千円となりました。

セグメントの業績については、次のとおりであります。

当社のセグメントはこれまで料理飲食事業の単一セグメントでありましたが、武蔵浦和プロジェクトの3店舗が開店したことにより、第2四半期会計期間より女性専用AIパーソナルジム「FURDI」を「その他」として追加し、「料理飲食事業」及び「その他」として2区分に変更しております。

料理飲食事業については、従前より報告しております「庄や」「日本海庄や」「うたうんだ村」「じんべえ太郎」「VANSAN」であり、その他事業については、女性専用のAIパーソナルフィットネスジム「FURDI」であります。

また、その他については、前年同四半期実績がないため、比較情報を記載しておりません。

	料理飲食事業	その他
売上高 (前年同期比)	1,226,325千円 (30.5%増)	4,825千円 (-)
セグメント利益又は損失(△) (前年同期比)	15,688千円 (-)	△15,478千円 (-)

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産は696,279千円となり、前事業年度末に比べて188,451千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が198,917千円減少したことによるものであります。

また、固定資産は904,610千円となり、前事業年度末に比べて107,795千円の増加となりました。これは主に、建物等の有形固定資産が102,350千円増加したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債は346,658千円となり、前事業年度末に比べて105,347千円の増加となりました。これは主に、短期借入金の増加100,000千円、1年内返済予定の長期借入金の増加3,856千円、買掛金の増加7,485千円、未払消費税の減少20,160千円によるものであります。

また、固定負債は550,254千円となり、前事業年度末に比べて35,192千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少30,219千円によるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産は703,977千円となり、前事業年度末に比べて150,810千円の減少となりました。これは、四半期純損失計上の結果、利益剰余金が152,363千円減少したことによるものであります。

（3）継続企業の前提に関する重要事象等

継続企業の前提に関する重要事象等

新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類へ移行したことにとともない、ご来店客数の回復傾向は顕著となり、売上高はコロナ禍以前の水準にせまるまでに回復してまいりました。しかしながらその回復傾向は地域により大きく差が出始めており、当社の業績回復は限定的な状態となっております。

また、当社は6期に亘り多寡はあるものの営業損失を計上しており、当第3四半期累計期間においても業績回復の途上であり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が継続しております。

このような状況を解消するために、当社は、事業の収益改善と資金繰りの安定化を目的として下記の改善策を実施しております。

まず、事業の収益改善を図る目的として、店舗損益構造改革を実施しております。具体的には、第2四半期会計期間に約120坪の日本海庄やを3店舗（じんべえ太郎、VANSAN、FURDI）に業態変更し、リニューアルオープンした武蔵浦和プロジェクトのように、事業ポートフォリオの組み替えを実行していくとともに、既存ブランドの活性化として、部分改装を実施し、お客様が来店しやすいお店、客席との一体感を出していくための施策を実施しております。コスト改善に関しては、仕入に関する新システムの導入、水道光熱費及び販促活動の継続的な見直しを実施しております。またコロナ禍を経て変化したお客様の行動様式を捉え、既存店の駅前立地を活かし、アフターコロナで好調なVANSAN業態及びじんべえ太郎業態への業態変更の取り組みを新たに計画しております。

次に、資金繰りの安定化のため、政府系金融機関並びに民間金融機関からの協調融資による新型コロナウイルス感染症に関する特別貸付の長期低利融資を活用し、また当座貸越の枠の活用を視野にいれながら、運転資金の維持確保と一定額のキャッシュ水準の積み増しと維持に努めております。

これらの対応策により売上高の回復とともに店舗収益改善と事業の効率化を図り、収益構造の改善を行ってまいります。

当社は、当第3四半期会計期間末現在で、現預金残高609,564千円、純資産残高703,977千円を有しており、現時点では安定的な財政状態を維持しております。そのため、これを基盤として上記対応策を進めていくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月14日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	808,482	609,564
売掛金	39,855	48,738
原材料	12,794	12,716
前払費用	18,502	18,920
その他	5,096	6,339
流動資産合計	884,731	696,279
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	257,595	358,551
土地	213,034	213,034
その他（純額）	44,467	45,861
有形固定資産合計	515,097	617,447
無形固定資産		
	12,955	12,955
投資その他の資産		
差入保証金	198,032	192,952
その他	76,881	87,335
貸倒引当金	△6,152	△6,080
投資その他の資産合計	268,762	274,207
固定資産合計	796,814	904,610
資産合計	1,681,545	1,600,890
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	39,609	47,094
短期借入金	-	100,000
1年内返済予定の長期借入金	36,042	39,898
未払法人税等	4,916	3,687
賞与引当金	1,145	4,740
その他	159,597	151,238
流動負債合計	241,310	346,658
固定負債		
長期借入金	485,621	455,402
資産除去債務	90,910	83,702
その他	8,915	11,150
固定負債合計	585,447	550,254
負債合計	826,757	896,912
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	313,600	313,600
利益剰余金	1,105,173	952,810
自己株式	△622,129	△622,159
株主資本合計	846,644	694,250
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,143	9,727
評価・換算差額等合計	8,143	9,727
純資産合計	854,787	703,977
負債純資産合計	1,681,545	1,600,890

（2）四半期損益計算書  
（第3四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 （自 2022年7月1日 至 2023年3月31日）	当第3四半期累計期間 （自 2023年7月1日 至 2024年3月31日）
売上高	939,301	1,231,149
売上原価	304,395	380,820
売上総利益	634,905	850,329
販売費及び一般管理費	916,469	992,481
営業損失（△）	△281,564	△142,151
営業外収益		
受取利息	15	13
受取配当金	83	667
その他	8,393	929
営業外収益合計	8,492	1,609
営業外費用		
支払利息	38	1,182
その他	8	54
営業外費用合計	46	1,236
経常損失（△）	△273,118	△141,778
特別利益		
補助金収入	-	4,616
特別利益合計	-	4,616
特別損失		
減損損失	1,451	-
店舗閉鎖損失	369	9,881
貸倒引当金繰入額	7,826	-
特別損失合計	9,647	9,881
税引前四半期純損失（△）	△282,765	△147,043
法人税、住民税及び事業税	6,598	3,778
法人税等調整額	△742	1,541
法人税等合計	5,856	5,319
四半期純損失（△）	△288,621	△152,363

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主として「料理飲食事業」を行っております。料理飲食事業は、株式会社大庄のFCとして手作りの和食料理をメインとした「庄や」、「日本海庄や」、カラオケ「うたうんだ村」、株式会社VAN SANのFCとしてイタリアンキッチン「VANSAN」、当社独自業態として大衆すし酒場「じんべえ太郎」の運営等を行っております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間まで、「料理飲食事業」の単一セグメントとして情報を開示しておりましたが、2023年10月より女性専用AIパーソナルフィットネスジムの運営である、「FURDI」事業を運営しております。そのため、第2四半期会計期間よりセグメントの区分を見直しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、四半期財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報  
前第3四半期累計期間（自 2022年7月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期財務 諸表計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	939,301	939,301	—	939,301	—	939,301
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	939,301	939,301	—	939,301	—	939,301
セグメント利益又は損失 (△)	△134,838	△134,838	—	△134,838	△146,726	△281,564

当第3四半期累計期間（自 2023年7月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期財務 諸表計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,226,325	1,226,325	4,825	1,231,149	—	1,231,149
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,226,325	1,226,325	4,825	1,231,149	—	1,231,149
セグメント利益又は損失 (△)	15,688	15,688	△15,478	211	△142,362	△142,151

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「FURDI」事業を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△142,745千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期財務諸表の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(資金の借入)

当社は、2024年3月12日の取締役会決議に基づき、次のとおり資金の借入を実行しております。

借入の概要

1. 借入先 日本政策金融公庫
2. 借入金額 2億円
3. 借入条件 固定金利
4. 借入実行日 2024年4月17日
5. 借入期間 10年
6. 資金使途 設備投資1.6億円、運転資金0.4億円